

ミャンマー・マンダレー市 アマラプラータウンシップにおける 伝統織物の振興のための 指導者の技術向上支援

特定非営利活動法人アジアクラフトリンク

2019年2月1日

団体紹介：アジアクラフトリンク

あゆみ

- 2005年 任意団体としてミャンマーでの支援活動開始。
- 2012年 組織改編し、NPO法人化。
- 2015年 ミャンマー連邦政府のi-NGO登録完了。
- 2016年 新潟市より3年間の特例認定取得。
- 2016年 ミャンマー政府小規模産業局(SSID)とMOU締結。



活動

内容：

一村一品のコンセプトによる名産品づくりと、生産者と消費者をつなぐフェアトレードの推進を通じて、地域産業の育成を目指すソーシャルビジネスの構築を、日本とミャンマーで人材育成を行いながら展開。

分野：

織物教育支援／木工産業育成／
有機紅茶栽培支援／オーガニックコットン開発／
蓮布開発／竹産業育成／植林



事業国：ミャンマー連邦共和国

基礎データ

面積：676km²（日本の約1.8倍）

人口：5141万人（国勢調査2014）

経済データ（以下、IMF 2017）

実質GDP成長率：6.72%

名目GDP総額：665億ドル

一人当たり名目GDP：1264ドル

消費者物価指数上昇率：4.57%

輸出139億\$ < 輸入195億\$

直接投資受入額：46.8億ドル



事業国：ミャンマー連邦共和国

政治社会動向

2011年 民政移管

2015年 総選挙

2016年 NLD政権発足

産業動向

労働力人口：3,045万人（ILO 2015）

主要産業：農業。製造業、サービス業も拡大傾向



- 民政移管後、外資増加により、**経済成長**が急速に進む。
- 2018年、最低賃金日額（4,800チャット=約380円／8時間労働）を制定。ただし、**ASEAN最低水準**。
- 低い賃金水準等から、合法・非合法の**出稼ぎ労働**が多い。タイへ300万人、マレーシアへ40万人（国際労働財団）。
- 電力が不安定で、自動車など大規模産業よりも、繊維業など**労働集約型産業**が外国企業の主な投資先。

事業対象地：マンダレー・アマラプラ

マンダレー市

- エーヤワディー川東岸に位置する古都
- ヤンゴンに次ぐ第二の都市

アマラプラ・タウンシップ

- マンダレー市街地より南方10キロ
- 有名観光地ウ・ベイン木造橋
- **織物産業**の国内集積地
- **サウンダース**織物専門学校本校(全国に13の分校)



事業対象：サウンダース織物専門学校

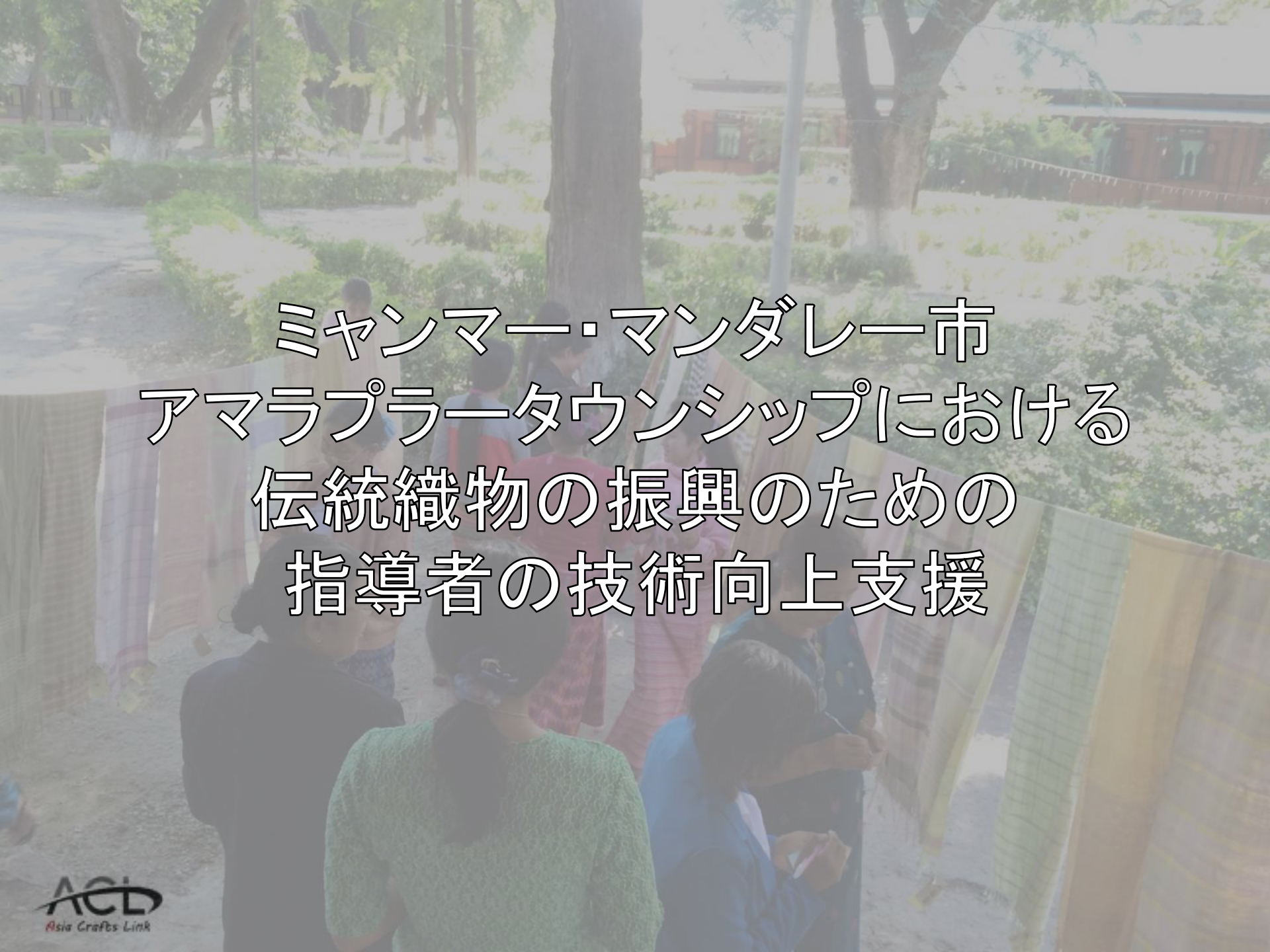
同校の歴史

- 1914年 L.H.サウンダースがアマラプラーに**創立**
- 1953年 国連による戦後復旧支援
- 1998年 JETROによる**草木染め**復活支援
- 2013年 日本アセアンセンターによる技術支援
- 2014年 UNDPによる施設整備支援
- 2018年 ブリティッシュ・カウンシルによる教育支援

アジアクラフトリンクとの協力実績

- 2006年 協力**開始**
- 2010年 **縫製教育・人材交流**事業(～2013年)
＜新潟・国際協力ふれあい基金＞
- 2015年 **縫製教育**支援事業
＜世界の人びとのためのJICA基金＞
→韓国系NGOによる**後続**事業
- 2017年 **織物**教育支援事業
＜JICA草の根技術協力事業＞





ミャンマー・マンダレー市
アマラプラータウンシップにおける
伝統織物の振興のための
指導者の技術向上支援

事業背景(1/2)

経済成長が進んでいると言われるが、、、

- 貿易赤字が大、**輸出できる産業・製品づくり**が急務。
- 現在の成長は、不動産等**サービス業**が牽引。**産業強化**が必須。
- 人材育成を担う**職業訓練機関**は、質・量ともに不足。

- 織物産業は、ミャンマーの**基幹産業**のひとつ。
- 政府SSID管轄の下、織物産業の人材育成を担う**サウンダース織物専門学校**。
- 設備投資や指導者養成など**教育環境の改善・強化**が重要。



事業背景(2/2)

ただし!

- 長年の情報統制や経済制裁下では、海外情報に触れられず、**世界的なトレンドや品質**を意識したものづくりが育っていない。
- SSIDは予算規模、人的キャパシティともに小さいため、校舎増改築や紡績機の導入などハード面を優先。**ソフト面**の支援が必要。
- アマラプラーでは織物産業の中心は機械織りに移行しているが、**輸出**できる品質まで改善するのは道のりが長いうえ、競合国も強力。ミャンマーが海外市場を目指すには、**手織り技術が必要**。

また、当会は、

- 縫製講座開講、一村一品理解の向上のための人材交流、商品開発など、これまで**ソフト面でも多岐にわたる事業実施**。



事業計画(1/2)

＜プロジェクト目標＞

織物学校の教師の手織り技術のスキルが向上するとともに、教育プログラムが確立される

＜事業計画＞

期間：2017年5月15日～2018年10月12日

予算：9,418,680円

＜主な活動＞

予備調査、
技術講習会・技術評価・試験販売、
テキスト制作・活用



事業計画(2/2)



【活動1】予備調査

- 対象者の技術や経験、課題
- 現地の織物技術



指標 1-1

予備調査結果

指標 1-2

指導者**育成計画**への
反映



【活動2】技術向上

- 技術講習会
- 技術評価
- 試験販売



指標 2-1

数値による講習前後の
技術レベル比較

指標 2-2

市場性のあるデザイン
への理解向上



【活動3】教育プログラム

- 教材開発
- 教材を活用した授業

指標 3-1

講習内容をもとにテキ
スト制作

指標 3-2

教育プログラム策定

事業実施体制

プロジェクトマネージャー(現地+国内) 1名

現地調整員 1名

国内調整員 1名

専門家 2名

現地スタッフ 3名



SAUNDERS'
MUSEUM OF ART & CRAFT

活動1 予備調査

活動1

手織り技術に係る予備調査結果を踏まえ、指導者育成計画が作成される

＜アウトプットと成果＞

第一回調査：2017年5月20日～5月26日

第二回調査：2017年6月7日～6月10日

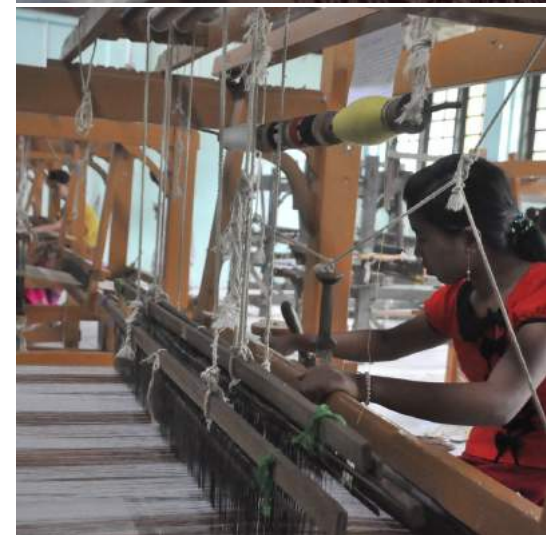
第三回調査：2017年7月1日～7月17日




プロジェクト対象者は織る技術そのものは高いが、

- 市場性を備えた、色の選択、配色
- 同じく、柄の選択、表現手法
- 使い手を意識した、仕様(大きさ)、肌触り
- 企画から一貫した製作と品質管理

以上について、認識や技術の向上が課題！





活動2
技術講習会

活動2

織物学校の教師が織物の応用技術やデザインを身につける。

＜アウトプットと成果＞

- 三回の技術講習会
- 日本人専門家による技術評価
- 日本国内・ミャンマーでの試験販売

（次スライド以降で説明）

活動2(技術講習会1)

回数	期間	講師	内容	効果把握指標
第1回	2017/8/24 ～ 2017/9/3	渡貫 専門家	1、服飾史・染織史を通しての手織り製品の魅力について 2、卓上織機のワークショップ 3、カラー帖を使った色の組み合わせ 4、色の組み合わせについて 5、模様と表現方法について 5、品質管理・マーケティング 6、デザイン実習 7、スカーフ制作実習	・課題作品の評価による技術向上の確認(比較は第2回開催後に実施) ・参加者の認識アンケート

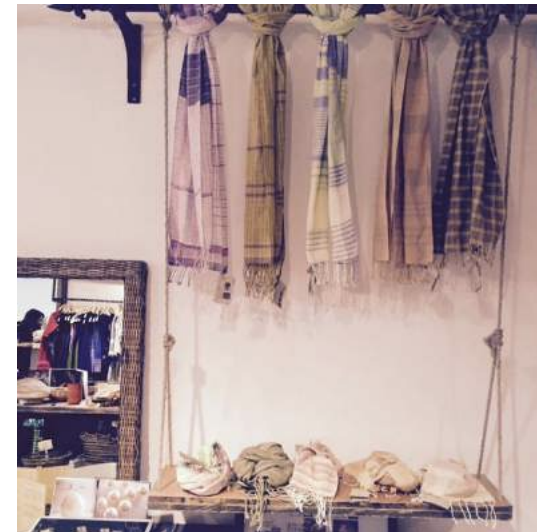


活動2(試験販売)

<試験手法>

講習会后、参加者が課題作品のコットンショールを製作。
 ミャンマーの既存店舗、日本でのイベントで販売。販売結果と消費者アンケート結果を、現地にフィードバック。次回の講習会テーマに活かす。

回数	店舗名	場所	主な客層	期間	内容
第1回	Cherry Myaing	ヤンゴン市内、 ボージョーア ウンサン市場	欧米系中心に 外国人観光客	2017年10月 25日～1ヶ月	教師9人 の作品
	Hla Day	ヤンゴン市内、 官公庁エリア	8割が欧州観 光客。ドイツ人 ディレクター	2017年11月 1日～1ヶ月	教師8人 の作品
	dacco.	ヤンゴン市内	大半が日本人 観光客・駐在	2017年10月 28日～1ヶ月	教師10人 の作品
第2回	当会主催： ミャンマー 展	新潟市北方 文化博物館	県内観光客、 地元住民	2018年4月 28日～5月 20日	教師27人 の作品
第3回	当会主催： ミャンマー クラフト市	新潟市ピア 万代	県内外観光客、 地元住民	2018年8月 11日、12日	教師24人 の作品



活動2(技術講習会2)

回数	期間	講師	内容	効果把握指標
第2回	2017/12/14 ～ 2017/12/22	渡貫専門家	1、課題作品の相互製作紹介ワークショップ 2、課題作品の市場評価報告 3、色彩講習 4、織物分解実習 5、品質管理について	・課題作品の評価による技術向上の確認 ・参加者の認識アンケート



活動2(技術講習会3)

回数	期間	講師	内容	効果把握指標
第3回	2018/5/22 ～ 2018/5/25	大水専門家	1、第2回講習会後の課題作品の市場評価報告 2、草木染について講義及び実習 3、参考作品及び講師作品の紹介 4、デザイン個別指導 5、デッサン実習	・課題作品の評価による技術向上の確認 ・参加者の認識アンケート



インド・アルバータ博物館所蔵



ミャンマー蓮糸の高級ショール

活動2(技術評価)

<評価手法>

講習会前、第一・二・三回の講習会受講後に、各参加者が製作した4作品を、以下6項目で、5点満点0.1点刻みに点数付けし、比較。

評価項目

- i. 草木染の色合いを活かした色の組み合わせができているか
- ii. 手織の特徴をいかしたスカーフの柄や模様を織りだしているか
- iii. ショールに合った糸使い(風合い)をしていたか
- iv. 糸のほつれ、汚れ等がないか(作りの丁寧さ)
- v. 模様・デザインのレベル
- vi. 商品としての完成度



活動2 (技術評価)



講習前

第一回後

第二回後

第三回(最終)

活動2(技術評価結果)

			草木染の色合いを活かした色の組み合わせができているか		手織の特徴をいかしたスカーフの柄や模様を織りだしているか		スカーフに合った糸使い(風合い)をしていたか		糸のほつれ、汚れ等がないか(作りの丁寧さ)		模様・デザインのレベル		商品としての完成度		合計	
			評価	伸び率	評価	伸び率	評価	伸び率	評価	伸び率	評価	伸び率	評価	伸び率	評価	伸び率
1	教師A	contoro	3.0	/	3.0	/	3.0	/	3.0	/	3.0	/	3.0	/	18.0	/
		1	3.5	1.17	3.0	1.00	3.0	1.00	3.0	1.00	3.0	1.00	3.0	1.00	18.5	1.03
		2	3.0	1.00	3.0	1.00	4.5	1.50	5.0	1.67	3.0	1.00	3.0	1.00	21.5	1.19
		3	4.5	1.50	4.0	1.33	4.0	1.33	5.0	1.67	4.5	1.50	4.3	1.43	26.3	1.46
2	教師B	contoro	3.0	/	4.0	/	3.0	/	3.0	/	3.0	/	3.0	/	19.0	/
		1	3.5	1.17	4.0	1.00	3.8	1.27	3.0	1.00	3.0	1.00	3.0	1.00	20.3	1.07
		2	4.0	1.33	4.2	1.05	3.5	1.17	3.5	1.17	4.0	1.33	3.0	1.00	22.2	1.17
		3	4.0	1.33	4.2	1.05	4.5	1.50	5.0	1.67	4.0	1.33	4.5	1.50	26.2	1.38

講習前から最終評価で、
 技術評価点の伸び率平均: 1.30

技術の向上

活動2(技術評価結果)

<最終課題作品への専門家コメント>

- 色使い、素材感、**すべてがバランスが取れていて**素晴らしいです。手織りの良さ、手紡ぎの柔らかさ、パーフェクトでした。
- 経糸、緯糸のバランスの**完成度が高い**です。緯糸の緋の入れ方もセンスが良いと思いました。
- 経糸に緋が入っており、2回目に比べて進化されていたことに驚きました。**4回目を見たい**と思いました。

技術の向上

<最終課題製作時の参加者振り返り>

- 都会のオフィスで働く女性を**イメージしながらデザイン**しました。理想の色に糸が染めあがるまで、自分でインディゴを採取し発酵させるところから、何度も繰り返してトライしました。
- 端と内側で織りの強弱をつけ手触りに変化をつけました。**着用時に**左右の色が違ったものになるよう工夫しました。
- 日本のイメージでデザインしましたが、雨が続く季節だったので、糸を**理想の色に染め上げる**のに苦労しました。夜しか織る時間がなく、製作時間を確保するのが大変でした。

意識の変化

活動2(参加者アンケート結果)

＜講習テーマが、役に立ったと思うか＞

- 全テーマ、「大変役に立った」「役に立った」が75%以上。90%超も。
- 講習テーマ「使用シーンに合わせたショールの色の考え」は、「大変役に立った」が80%超。消費者を意識した製作が大切だという意識が向上。

＜自由記入＞

「手を洗ったり、床を掃除してから製作作業に入るようになりました」

「マーケットが好むデザインを学べた。以前はそれと反対のことを実践していたが、間違いだと気づくことができ良かった」

「品質管理について学べ、これから自分でも市場に挑戦できると思う」

「ほかの人の品質と自分のショールの品質との違いを知れてよかった」



意識の変化

活動2(試験販売結果)

双方向的な**情報提供**の効果。

講習会参加者が販売結果を知り、**市場評価を意識**するように。

ショール購入:合計63件

アンケート回答:合計161件

初期作品へのコメント


- 長さについて、西欧人向けであれば、もう少し長く幅も広いとよりよい。肩にかけるようとしても、幅は広いほうがいい。
- 青と白を組み合わせたチェック柄は、キッチンタオルに見えてしまう可能性大。

最終課題作品へのコメント

- デザインと色が他に比べて豊富でおしゃれ。



意識の変化



活動3 教育プログラム策定

活動3（教材制作）

- **講習会内容をベース**に、当会と学校が協力してミャンマー語の教科書を制作。
- 2018年7月より、アマラプラー本校の主任教師が週2コマのデザイン講座で**試験運用**（1ヶ月間）
- 記載内容や表現等を修正した最終版を2018年9月に**発行**、10月全校**配布**。

＜学校長および主任教師からの評価＞

- デザイン、色についての部分が授業に有効
- 色彩の説明時にp1～p4のカラーバランス、カラーチャートの利用が有効
- 既存の教科書がほぼモノクロ印刷のため、**カラー印刷**された今回のテキストがあると、色使いやデザインの説明が効果的にできる

＜直近の成果＞

- 現地**政府**へ報告。完成度と使いやすさに高い評価。



活動3(既存教育プログラムへの教材導入)

＜既存カリキュラムで、テキストがどう活用されるのか＞

- 既存の教科書を補完する**副読本**という位置づけで利用。
- 色彩、デザインを、既存の授業でさらに**具体的に**説明できる。

＜導入に向けた、学校関係者らの具体的なアプローチ＞

- 2018年9月15日より、アマラプラー本校の1年コースのデザイン科目で、当副読本を使用した**授業が開始**。
- 使用者からの声集めをしたところ、「色彩への工夫」、「デザイン」という要素は、染めや、織りの基本概念にも適用でき、重要であるということから、順次、「染色」や「織り」の科目へも副読本の**利用範囲の拡大が計画**された。

→ 授業を受けた**学生**たちが、より**創造的な**作品づくりをし始めている。

変化の定着



限定作品の
コットンショール

ミャンマーの国立織物専門学校の先生達が、現地の伝統技術である手紡・草木染・手織の手法と日本の専門家の指導で学んだ新しいデザインを組み合わせて、ミャンマーの名産品作りに取り組みました。

JICA草の根技術協力受託事業です。

プロジェクト実施評価

「一村一品マーケット」とは？

「一村一品」運動とは、地域住民が自ら育てることのできる特産品を産出し、国内のみならず、世界の市場にも適用する競争力のある商品に仕上げる活動です。

日本政府は、2005年12月の世界貿易機関（World Trade Organization (WTO)）香港閣僚会議の際に、日本独自の開発途上国支援策である「開発イニシアティブ」を発表しました。その一環として、開発途上国における「一村一品」運動を支援するため、2006年2月に「一村一品キャンペーン」をスタートさせました。

この一村一品マーケットは、キャンペーンのコアとなる活動として、アジア、アフリカをはじめとする開発途上国の工芸品、織物、加工食品などの産品を販売し、皆さまにご紹介する場です。

ぜひ、一村一品を見つけてください！



What is "One Village, One Product Market"?

The "One Village, One Product (OVOP)" campaign is a movement to promote local economies through the development, improvement and promotion of products with strong export potential, and in which local producers and craft makers take pride.

Japan began its OVOP campaign in February 2006, with the aim of stimulating OVOP activities in developing countries, in line with its "Development Initiative for Trade" announced at the December 2005 World Trade Organization (WTO) Ministerial Conference in Hong Kong. The OVOP airport market, born from this initiative, is the core of Japan's OVOP campaign.

The market displays and offers for sale local products, such as textiles, handicrafts and foodstuffs, from developing countries in Asia, Africa and elsewhere. Please feel free to browse the market, and we hope you find your favorite item.

Ministry of Economy, Trade and Industry (METI)
External Trade Organization (JETRO)

Qu'est-ce que le marché "Un Village, Un Produit"?

La campagne "un village, un produit" consiste à découvrir et mettre en valeur une spécialité dont les résidents de la région peuvent être fiers, puis à l'élaborer pour en faire un produit compétitif accepté non seulement dans le pays d'origine mais sur le marché mondial.

Lors de la réunion ministérielle de l'Organisation Mondiale du Commerce (OMC) à Hong-Kong en décembre 2005, le gouvernement japonais annonçait « l'initiative en faveur du Développement », une série de mesures d'aide japonaises destinées aux pays en développement. Dans le cadre de cette initiative, la campagne « un village, un produit » a été lancée en février afin de soutenir celle-ci dans les pays en développement.

Le marché « un village, un produit » sont l'activité centrale de la campagne et des lieux de vente qui permettent de faire connaître au public consommateur les objets artisanaux, textiles, produits alimentaires transformés et articles divers fabriqués en Asie, en Afrique et autres régions du monde.

Ministère de l'Économie, du Commerce et de l'Industrie du Japon (METI)
Organisation Japonaise du Commerce Extérieur (JETRO)

事業計画の妥当性

- 冒頭の通り、同国が抱える**課題にマッチ**したテーマ、内容の事業計画であった。
- 同国の織物産業の**人材育成の中核**であるサウンダース織物専門学校を対象とした。
- 海外情報へのアクセスが一般的でない中、**世界で活躍する日本人専門家**を派遣する手法は、適切な知識だけでなく、参加者の関心と参加意欲を大きく高めた。



計画の遂行と効率性

- 計画した活動全てを期間内に**完了**。
- 講習会では、滞在費は全額、交通費は半額、学校が負担。予算低減効果以上に、**学校の参加意識**を高め、事業成果の持続性に寄与。
- 課題作品の製作期間は参加者への日当支払いはなし。**自主的な参加意欲**を損なうことなく活動。
- 事業後半、課題製作のサポートや評価を優先せざるをえず、事業終盤に教材開発を本格化させたため、テキストの活用状況の**モニタリング期間**が事業期間内には十分には確保できず。

事業のインパクトと有効性

- 参加者の**技術向上**が、技術評価により確認できた。
- 向上のスピードが速く、第三回技術講習会は、計画よりも**進んだテーマ**とし、草木染めの知識や、ヨーロッパ市場の経験が豊富な日本人専門家を派遣した。
- 参加者の**意識**が大きく変わり、学び合い、競い合いの場が作られた。
- 本事業活動は、現地コミュニティ(SSID、学校、参加者)から**受け入れ**られており、協力を得られた。
- 全国13の分校の教師からオブザーバー参加があり、テキストの導入も含め、インパクトの**広がり**があった。
- 技術の発信者として、参加者らが十分に育成され、意欲をもって取り組んでいるため、今後、**地域全体、産業全体の強化**につながることを確信。



持続可能性の工夫(1/2)

＜事業期間中の工夫＞

- 教師を対象にした能力開発により、学生への指導が向上し、**成果が受け継がれる。**
- 事業による成果と学びを盛り込んだテキストを、今後も裨益者らにより**継続して利用できるツール**として制作。
- 専門家による技術指導を、**参加者自らの工夫**によって製作に取り入れる経験を提供できたため、参加者らが事業終了後も取り組みを続けることができる。

持続可能性の工夫(2/2)

<事業終了後の工夫>

- 持続可能性をより高めるため、市場開拓サポートを継続。
- 2019年1月より、JETRO主催の**一村一品マーケット**(成田国際空港店、関西国際空港店)で、優秀作品の**特設販売**を開始。
- 販売結果や消費者の声をフィードバック。参加者らの**改善意欲の向上**、競い合い・学び合いの環境を引き続き提供。

<直近の成果>

- 一村一品で好評。3名分は初回納入分完売、追加発注。今後、**定期販売化**見込み。



その他の工夫やよかった点

- 国立の専門学校を対象としたため、カウンターパート **SSIDと学校との連携**が取れており、事業調整がスムーズだった。
- そのため、学校敷地内に、当会の簡易拠点を借用でき、安全管理上より**適切な環境での事業実施**ができた。
- 教材開発は、講習会の内容をベースとしたため、教師らが**スムーズに内容を理解**し、利用を開始できた。
- さらに、校長を含めた教師らが、テキストの導入に対して、自らが工夫をしながら、**高い意欲**を示した。

その他の工夫やよかった点

- 新潟のNGOとして、直営フェアトレードショップSaiや県内各所でのイベント開催や、各種イベントに出展したほか、広報物を発行し、国際協力活動を具体的に紹介した。

イベントでは、

- 事業紹介や作品展示、市場調査を実施し、市民の声を事業活動に取り入れた。
- 本事業を入り口に、国際協力・国際交流全体について、広く市民に向けた広報を行なった。

JICA草の根技術協力事業

～ミャンマー・マンダレー市アマラプラータウンシップにおける伝統織物の振興のための指導者技術向上支援～

2017年5月15日から、ミャンマー・マンダレー市アマラプラータウンシップにある「サウンダース織物学校」にて、JICA草の根技術協力事業として指導者の技術向上支援事業を開始しました。

ミャンマーにおいて、織物学校は指導的な立場にあり、伝統織物の継承と技術向上指導の役割を担っています。

日本の専門家の技術指導を受けることにより、技術向上や品質向上が達成でき、教師のスキルアップが図られ、また講習内容をテキストにする事で、若手や地域の技術力の向上を果たすことができます。



このような目標を立て、中核となるサウンダース織物学校を舞台に、海外でも通用する製品開発のスキルを持つ人材育成計画を開始しました。将来はその人たちによって、地域産業育成の実行を目指します。

講習会の様子（2017年8月～2018年5月）





ご静聴ありがとうございました。